

大地は夜になると、あちこちから祭の笛太鼓の練習の音が聞こえて来る季節となりました。散歩へ行くと、稲が黄金色に頭を垂れ、ススキが咲く光景に出会い、赤いリンゴをほおぼり、栗を拾い、秋の入り口を楽しむ子どもたち。同時に、まだまだスイカをたっぷり味わっている夏の子どもたちでもあります。

さて、2 学期も、登山、運動会と、冒頭から皆様の貴重な週末を大地にご協力いただきまして、ありがとうございました。登山は、不安定な天候ではありましたが無事登り終えました。岩菅山のラスト30分の山頂直下の登りは、風と小雨のちょっとドラマチックな緊張感があり、登山の醍醐味を少し味わえました。年少児の焼額山は、ハイキング気分がゆったりと楽しめました。「老若男女誰でも一步一步歩いていけば、レギュラー（頂上）が保障され、同じ感激を味わうことができる」山登りを今後も、ぜひご家族で楽しんでいただければと思います。

運動会は、子どもたち一人一人が目を輝かせて、楽しみました。練習がなくても、大人が楽しんでやる世界にいたからだと思います。「まさに、子どもの成長、教育は、どれだけ素敵な元気な人生を送っている大人に囲まれているからだ」に尽きることでしょう。

昨日から、案山子作りが始まり、ようやくほっとしています。私にとっては、登山や運動会に比べて、案山子のプランニングや子どもたちの制作過程の考案の方が、更にエネルギーとアイデアを捻出す苦労があります。1 から生み出す 考え出すことは、充実感もあります。今年の「カマキリ爺さん」にも大満足な秋のスタートとなりました。

【子どもから可能性をもらおう】

この夏は、我が子や大地 OB の子どもたちから、これからの自分の可能性にたくさんの力をもらった。子どもの可能性を感じたのではなく（それももちろんあるが）、自分のまだまだやりたい事への可能性である。



夏休みの前半は、連日のキャンプや白馬岳への登山、その合間のトレーニング登山、そして、更にその合間で、お話を覚えること（白馬山頂直下でのお話の勉強）など、大好きなハードスケジュールを難なくこなせたことへの自信と可能性。

後半の夫婦での裏銀座 4 泊 5 日のハードな縦走。たぶん生まれて初めて、27 キロの荷物を背負っての縦走は、若者からも褒められ、励まされ、まだまだやれるという大きな自信となった。九死に一生を得た雷からの難を逃れた事は、まだ死ぬ運命ではないと妙な自信をつけた。妻は妻で、本格的登山は、20代の結婚した当時以来のことで、ここ数年の体調から考えて、危惧していたが、連日のトレーニングと長男に会うという執念で、荷物を背負っての初縦走を、見事にやり遂げ、こちらにも大きな自信となり、更に海外登山への夢を膨らませている。

山へ行くと、私たち夫婦は、まだ若い尻の青い世代である。その3分の2弱は、60、70代の人達である。最近は、20代の女の子たちのグループも目に付く。裏銀座では、5 日間のうち、たった一人の中学生しか会わなかった。（小学生3人を連れての家族連れに会い、感激して声をかけて話していると、先方の父親が「ののかのお父さんですか」と声をかけてきた。昨年、娘が働いていた山小屋のオーナー家族であった。すごい出会いに感激）

皆、出会う人達は輝き、その人達との会話は、全てエネルギーがあり、元気がある。それは、皆、一步一步急坂を歩いて行くからである。日本で今、1 番元気なのは、山に登る 60、70 代の人達かもしれない。だから、登山者たちとの会話や出会いは、大きなエネルギーと元気をもらう。

日本最奥の黒部五郎小舎で働く長男は、この限界で「キラキラボーイ」と名を馳せているらしく、暇さえあれば、トレーニングと称して、2900m 付近の稜線を長靴で楽しそうに走り回っており、登山者たちに爽やかに声をかけているらしい。身体も見違えるようにたくましくなっていた。夢を持ち大好きな事をしている人間は、こんなにも変わるものなのかと、人の可能性に驚いた。この子にも負けるわけにはいかないと、妙なライバル心が沸き起こってきた。

同時に、昨年長女が働いていた山小屋にも顔を出してきた。昨年の同僚や関係者からも長女の働きぶりやユニークぶりを聞くにつけ、いい味を出して精一杯働いていたことを感じ取れた。長女も、ここ数年、山登りの魅力にはまっている。ご存じのように、高校卒業まで、全くのインドアで、どう人生が化けるかわからない。京都へ自転車で修行に行ったこの4月からの執念が実り、つい最近、念願の厨房に入ることでき、いよいよ本格的に人生の喜びを持って過ごし始めた。その記念に、来週夜行バスで、早朝長野に着いて、日帰りアルプス登山に挑むらしい。この娘からも、夢と可能性をもらった。

上の2人に続き、次男が、この夏は少しであるが、大地デビューを果たした。夏のキャンプ、大地の保育 大地の登山と子どもたちと多少なりと過ごした。慣れるにつれて、青山家1番の気配りとさっさと状況を判断して身体が動く長所をいかに発揮してくれた。中高校とハードな思春期を味わわせてくれたが、見事に元の位置に戻って来てくれたうれしかった。子どもたちと楽しそうに会話し、過ごす姿に、これからの可能性と、自分への子どもたちと過ごすことへの可能性をもらった。

現在、ハードな思春期真っ最中の末っ子。全国制覇という金字塔をもらって、この夏、中学野球を引退した。いよいよ、高校受験という短いペナントレースに入った。強豪私立（寮生活やいじめが怖いらしい）ではなく、公立高校を狙う。野球の練習以上に受験勉強の毎日は厳しく、夏休みは野球で明け暮れたので、受験勉強スタートは出遅れ、塾には、入りそびれたので、一考した。受験体制に入ったら、苦労な新聞配達は止めると思っていたのだが、今度は、新聞配達のお金（今までは、野球道具に使っていたが）で、家庭教師をお願いするということに決定した。いい根性をしている。親は、現在の受験勉強の無意味さやくだらなさを批判しているが、末っ子は、その高校で野球をしたいという理由だけで、そこを目指しているのだから、その夢をかなえる手段 方法としての勉強と割り切っている。この末っ子の姿勢からも、生きる力 可能性を親としてもらった。

8月の末に「生きる力を育てる」の著書を書いた天外司郎さんと大地 OB 保護者である本田健さんのジョイント講演会へ出席してきた。1000人以上の人たちが集まり、新しい教育の流れが確実に来ていることを実感し、全国各地でポリシーを持って揺るぎない教育を実践している人たちと出会い、また再会して、元気をもらった。大地 OB の子どもにも再会し、素敵な世界を自信を持って歩んでいる姿に感動し、刺激をもらった。「現在の教育内容は、100年前の缶詰を開けて実践しているような感じだ」という言葉が印象的だった。

大地は、旬の教育を実践し、新しい流れと可能性を作っていこうという気持ちが、更に高まった夏のしめくりだった。

自分の可能性にふたをせずに、これからも様々なことに向かって行こう。そんな姿を子どもに示していこう。

※大地開園から大地へ時々遊びに来ている読売新聞記者「オットセイのお兄ちゃん」もすごい可能性です

脚光を浴びている業界、人気のプロスポーツなどは、
頂点を目指す人のたくさんいる、
いわば「大きな三角形」をした世界です。

一方、トイレ掃除や梱包のように一見すると地味だけれど、
自分が独自に作り上げた世界は「小さな三角形」の世界です。

大きな三角形は、遠くからも目立つし底辺も広いので、
その世界に入ること自体は簡単ですが、
その三角形の頂点は遙か遠くにあり、そこに辿り着けるのは
ごく一部の才能に恵まれた人だけなのです。

一方、小さな三角形は、入り口は狭いのですが、
その世界に入れば競争も少なく
比較的早く頂点に上り詰めることができます。

例えば、プロ野球で頂点に行くのはとても大変ですが、
競技人口の少ないマイナースポーツなら、ある程度の才能でも、
練習を積めば日本の第一人者になることだって夢ではないということです。

マイナーな世界なんてつまらない、と思いますか？

もし、あなたがそう思っているとしたら、
とてももったいないので、面白いことをお教えしましょう。

それは、どんな小さな世界であっても、
そのトップになれば、他の分野のトップの人たちと
交流する機会に恵まれる、ということです。

小さな三角でも、その頂点は大きな三角の頂点と繋がっているのです。
三角形の大きさに関わらず、
その中のトップはトップ同士、
真ん中クラスは真ん中同士、
そして底辺は底辺同士で交流が行われるようになっているのです。

ですから、人脈ということで考えるなら、
三角の底辺が狭ければ狭いほど、
各界のトップの人たちと繋がりやすいポジションへ行ける可能性が
高くなると言えるのです。

人脈の「質」をアップさせるうえで大切なのは、
三角形の大きさではなく、
三角形のどこに自分が位置しているか、
ということだといえるでしょう。

それに、小さな三角は、
あなたが輝くことによって
大きな三角へと変貌を遂げる可能性も秘めています。

楽天の三木谷さんが今のビジネスを始めたときは、
まだインターネットで買い物をする人も、
自分の商品をインターネットで売ろうとする人も
ほとんどいない時代でした。

でも今、彼が描いた夢は多くの人を魅了するほど
大きな三角形に成長しています。

サッカーの三浦知良選手が
単身ブラジルにサッカー修行に行ったのは、
Jリーグはおろかプロサッカー選手など
日本には一人も存在していなかった時代です。
でも今や、プロサッカー選手は
子供たちのあこがれの職業のひとつです。

大きな三角の頂点に挑戦するのもすてきな夢ですが、
自分自身で三角を作り、
それを大きな三角に成長させていくことも、
とてもすてきな夢だと私は思います。